:: 世界に目を向け・海外の人材招致推進

国外の優秀な人材を多数招致

2006年9月、「2006年度行政院海外科学技術者招致訪問団」がアメリカ、日本を訪問し、海外の優秀な科学技術者の人材招致活動を行い、南科管理局も共同参加した。

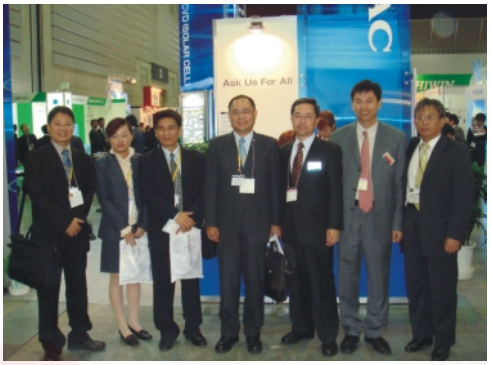
南科管理局は国外訪問期間、南科産業拠点を広くアピールすると同時に、半導体産業等の重点産業の国際協力構築に積極的に取り組んだ。2006年の海外招致活動を通し、国際的な科学園区に共通する点として「良好な国際化生活環境」、「基礎ネットワークの完璧な整備」、「便利な国際交通」、及び「分野を超えた十分な人材供給」等が必要である事を学んだ。

2006人材招致商談会会場(9月7-17日)

アメリカ訪問ー2006年台湾投資説明会

アメリカでの人材招致活動は2006年9月7日から17日までの期間、シリコンバレー、ロサンゼルス、ボストン、ニューヨーク等で行われ、「企業及び人材招致商談会」を合わせて4回、「2006年台湾投資説明会」を4回開催し、地元企業に対し、台湾の投資環境と特別優遇政策を紹介した。

2006年訪問団の過去との最大の違いは投資企業のスケジュールを加えた事である。投資希望のある企業の中ではバイオテクノロジー産業、製薬会社が比較的多く、特に台湾のパートナー企業を探す企業もあった。また、政府の投資参加も希望した。次に多かったのはソフト情報通信産業の企業であった。



南科管理局呉盟分副局長(中)が日本横浜にて企業誘致、日本企業代表と記念撮影(10月16-21日)

日本訪問ー日本の設備産業の参入促進

南科管理局は大きな成果を収めた2005年の日本企業誘致活動に続き、2006年10月16日から21日にかけて、呉盟分副局長を団長として再度日本を訪問し、有名なFPD設備メーカー6社を訪問し、また横浜で開催されたFPD展を見学したほか、横浜市と台南県政府共同で、企業誘致説明会を開催した。

日本紀行ー横須賀リサーチパーク訪問とWTP展覧会見学

高雄園区における電気通信産業拠点の形成と発展を加速するため、2006年4月24日から29日にかけて、南科管理局の戴謙前局長(現、国科会副委員長)と高雄園区組の林威呈前組長(現、副局長)が工研院資通所、国内電気通信企業と共に日本を訪問し、横須賀リサーチパーク(略称YRP)、独立行政法人情報通信研究機構(National Institute of Information and Communications Technology, 略称NICT)実験室、及びNTTDoCoMo、KDDI研究開発センター等の施設を見学した。また、27、28日にはYRPが横浜で開催した「ワイヤレステクノロジーパーク2006、略称WTP」電気通信展覧会を見学した。

南科管理局率いる団員と長尾真氏(NICT理事長・前列中)、NICT東京本部ロビーにて記念撮影(4月24-29日)

ヨーロッパ紀行ー2006IASP年会出席、及び企業誘致活動

2006年6月4日、南科管理局の呉盟分副局長と工研院メンバーがヨーロッパを訪問し、IASP年会に出席し、ヨーロッパ企業誘致活動に参加した。また、イギリスのケンブリッジ科学園区(Cambridge Science Park)、Babraham Bioscience Technologie社、及びフランスのSOPHIA ANTIPOLIS園区、また、航空会社業界に世界で唯一、情報処理システムGDS(Global Distribution System)を提供しているAMADEUS社を訪問した。更に、SOPHIA ANTIPOLIS園区内の欧州電気通信基準組織(European Telecommunications Standards Institute;ETSI)の技術長、Adrian Scraseを訪ね、高雄園区の電気通信産業発展についてアドバイスを受けた。

最後に、訪問団はロンドンの北東55マイルの位置にあるケンブリッジ科学園区東イングランド地区六郡(Cambridgeshire, Norfolk, Suffolk, Essex, Hertfordshire, Bedfordshire)を訪問した。この東イングランド地区六郡はイギリスで最も経済発展を遂げている地域であり、ここにはイギリスの約70%のハイテク技術者が従事している。この地区は典型的な研究開発地域であり、この地区の平均研究開発費はイギリス全国平均の3倍、91%の企業が社員20人以下の企業である。

国家元首の南科視察

陳水扁総統、南科を三度視察

台湾の南北の発展均衡に力を入れている陳水扁総統は、2006年、南科を3度視察した。一度目は9月9日で、国科会の陳建仁委員長、南科管理局陳俊偉局長が多数の職員と共に陳総統の訪問を歓迎した。陳総統は9年来の南科の成長と発展の現状に強い関心を持ち、報告を聞いた後、南科の各公共施設を視察して回り、南科考古文物陳列室に寄り、考古文物を見学した。

陳水扁総統(右3)とエルサルバドル・サカ大統領(左3-4)台積電を訪問(10月19日)

陳水扁総統の二度目の訪問は10月14日で、高雄園区を視察した。先ず、長興開発科技株式会社を視察し、その後、高雄園区事務所を訪れ、園区内の業者を招いて食事会を開き、意見交換をした。食事会の後、陳総統は企業の代表と共に園区事務所前で記念写真を撮影し、高雄園区発展への期待を寄せた。

また、10月19日、陳総統は台湾訪問中のエルサルバドルのサカ大統領夫妻を伴って南科を訪問し、南科テクノロジー産業の視察と交流を行った。今回の視察では、「台湾に根ざし、世界展開を目指す」、「緑のシリコン島」等の国家展望を宣揚すると共に、南科の国際的な実力を示した。今後、南科は自らの経験を世界に広め、特に政府の推進する「南アメリカ進出」のテクノロジー外交の使命を果たしていく。

呂秀蓮副総統、科技諮問委員会と共に高雄園区視察

呂秀蓮副総統は、陳水扁総統同様、南科の発展に期待を寄せ、2006年5月5日、総統府科技諮問委員会委員と共に高雄園区を視察した。そして、電気通信技術センター、科学工業園区同業組合、奇美電子等ハイテクメーカー15社の代表と座談会を開き、直接、産業界からの意見を聴き、政府の南北均衡発展政策の決意を表した。

呂副総統(前列中)南科高雄園区を訪問(5月5日)

ドミニカ共和国フェルナンデス大統領夫妻南科訪問

ドミニカ共和国のフェルナンデス大統領夫妻が2006年6月27日、南科台南園区を訪問し、大統領は台湾のハイテク産業発展の経験をドミニカの産業発展の参考にしたいとの希望を示した。この訪問には外交部の黄瀧元副部長が随行した。

ドミニカ共和国のフェルナンデス大統領は、南科の発展に深い敬意を示し、ドミニカの科学技術発展の参考にしたいとの希望を表すと共に、台湾のハイテク産業の投資を通じて、台湾、ドミニカ、及びアメリカ東海岸の新三角戦略関係を形成し、三方の産業技術交流と貿易を促進したいと述べた。

国科会委員長陳建仁(右)がドミニカ共和国フェルナンデス大統領に石斧を贈る(6月27日)

ビジネスチャンス開拓、国外の代表団が相次ぎ南科訪問

エルサルバドル投資促進局、ビジネスセミナー開催

エルサルバドル国家投資推進局一行が、2006年4月17日から5月1日にかけて台湾を訪問し、台北、台中、高雄で「台湾エルサルバドル園区投資ビジネスセミナー」を開催し、4月21日に台南園区を見学した。

エルサルバドル国家投資局の訪問は、中南米とアメリカの自由貿易協定が次々に締結される中、台湾とエルサルバドルの新しいビジネスチャンスの開拓を進める上で非常に重要な意味を持ち、南科見学後、四名のエルサルバドルの友人は南科園区に深い印象を持った。

エルサルバドルの友人たちとの晩餐会で記念撮影(4月21日)

日本の徳洲会と提携覚書調印

2006年3月24日、日本の徳洲会から、設立者徳田虎雄氏夫人の徳田秀子女史を団長とする日本徳洲会訪問団が高雄県の楊秋興県知事の案内により、高雄圓山慈善会に出席し、南科管理局と友好提携覚書(MOU)に調印した。

徳洲会は徳田虎雄医師(前国会議員)が1973年に設立した医療法人で、現在、所属病院は170余り、従業員は1万5000人に達し、日本最大、世界第二の規模を誇る医療法人である。高雄園区は今後の医療器具産業の発展のために協力関係の構築に力を入れている相手である。

ドイツ投資部長と会談

2006年3月29日、招致活動のため台湾を訪れていたドイツの投資部長Mr.Gerhart Maier氏一行が南科管理局と台南県庁を訪れ、南科管理局の戴謙前局長、台南県の蘇煥智知事が歓迎した。会談の後、一行は南科特定区の液晶テレビ特区及び奇美電子公司を見学した。

ドイツは2006年サッカーワールドカップの主催国であり、このため、Mr.Gerhart Maier氏は特別に2個の試合用サッカーボールに自らサインし、蘇県知事と戴前局長に今回の訪問の記念としてプレゼントした。

日本徳洲会との友好提携覚書(MOU)に調印(3月24日)

ドイツ投資部長(中)が記念に自らのサイン入りサッカーボールを南科管理局に寄贈(3月29日)